

「拉致問題に関する中学生サミット」 参加報告レポート

令和6年度

発行日 令和7年2月3日（月）

「拉致問題に関する中学生サミット」って何？

本サミットは、政府拉致問題対策本部が主催しています。政府拉致問題対策本部は「拉致問題の解決のためには、国民が心をつなげて、全ての拉致被害者の一日も早い帰国実現への強い意思を示すことが、問題解決に向けた力強い後押しになる。他方、これまで拉致問題に触れる機会の少なかった若い世代への啓発が重要な課題となっているところ。」と発表しています。

そこで、中学生が拉致問題を主体的に考え、拉致問題の啓発を支えるリーダーを育成することと、全国各地での多様な取組を一層促進することを目的として、今年度8月9日（金）、都道府県及び指定都市の代表による、「拉致問題に関する中学生サミット」が東京で開催されました。

今回は福島県人権教育推進地域である、矢祭町立矢祭中学校の永山史恩さん（3年生）と糸井英佑先生が参加しました。

中学生サミットの内容

- 拉致問題御家族の講話
- グループ協議
協議テーマ
「拉致問題を同世代、家族、地域の人に
自分事として考えるためにはどうしたらよいか。」
- CMの絵コンテ作成
- CM劇の全体発表

拉致問題とは

拉致に関する真相は明らかにされていませんが、北朝鮮が拉致するという未曾有の国家的犯罪行為を行った背景には、職員による日本人への身分の偽装、職員を日本人に仕立てるための教育係としての利用などの理由があったとみられています。（参考：政府広報オンライン）

詳しい内容については
ここをチェック！



政府拉致問題対策本部
公式チャンネル

中学生サミットに参加したお二人にインタビュー

矢祭町立矢祭中学校 3年 永山史恩
教諭 糸井英佑

参加したお二人に、たくさんお話をうかがうことができました。感想等も含め、実際に参加したからこそ分かる生の声をお届けします。

今までは、北朝鮮による拉致問題は他人事だと思っていた永山さん。しかし、今回の参加で、心に変化が起きたようです。その変化とは…。

質問：実際に参加した感想を教えてください。

永山さん ● たくさんの地域から人が集まり、拉致問題について真剣に考えることができ、とても貴重な時間になりました。実際の被害者家族に会って話を聞き、拉致問題がより現実的な問題だと感じました。このような場に参加できてよかったです。



他県の生徒達とCMの内容についてディスカッションする永山さん。

糸井先生 北朝鮮による拉致から長い年月が経っていますが、未解決である本件に対して、改めて重要性を強く意識することができました。決してあきらめない拉致被害者家族の姿勢に胸を打たれました。また、本件に馴染みが薄い中学生へ伝えていくことが重要であると思いました。



【サミットに参加した永山さん（右）と引率した糸井先生（左）】

当日のステージ発表では、テレビ局の撮影もあり緊張したとのこと。「拉致問題を他人事にしない。自分事として考える。」を念頭に、他県の中学生4名と協力して、拉致問題のCMを作成しました。



「キャッチされないボール」
（「拉致問題に関する中学生サミット」に参加した中学生のアイデアを基に制作されたもの）

「拉致問題に関する中学生サミット」
メイキング（令和5年度）



学校で報告会を行いました

質問：報告会をする前と後の心境はどう変化しましたか？

永山さん サミットで経験したことを言葉にまとめ、全校生徒の前で発表することはとても難しく感じました。サミットで話を聞いた拉致被害者家族の思いを自分が代弁できているか、悩むこともありました。しかし、実際に発表し、全校生徒が集中して話を聞き、最後に拍手を送ってくれた時に、報告会を行ってよかったと思いました。発信することの難しさを感じましたが、発信することで、周囲の人たちが拉致問題について考えるきっかけになったという手応えも感じました。報告会を通して、これからも拉致問題に関心を持ち続けたいと思いました。

質問：報告会で一番伝えたかったことは？

永山さん 「他人事にしない。自分事として考える。」を一番伝えたかったです。拉致問題を解決させるために一番必要な考え方だと思っています。拉致問題は人としての権利を侵害し、自分らしく生きる権利を奪っています。だからこそ、他人事としてとらえるのではなく、自分自身のこととして考えなければいけないと思っています。また、自分の生まれる前の「過去」の問題ではなく、「現在進行形」の問題であることも伝えていきたいと思っています。無関心な人を増やさないためにも拉致問題を発信していきたいと思っています。

質問：友達の反応はどうでしたか？

永山さん 未解決である拉致問題に対して、興味をもってくれる友達が多かったです。報告会后に拉致問題に対して自分で調べた友達もいました。また、サミットの様子を聞いてくる友達もいました。拉致問題を発信していくことで、多くの友達が拉致問題へ関心をもってくれることが実感できました。身近な人からどんどん拉致問題について関心が広まっていくと嬉しいです。



【第2学期の始業式に、全校生の前で報告会を行った永山さん】

作成した資料を基に、拉致問題の重要性を発信しました。

地域のコミュニティースクールでも報告会を行いました

質問：報告会に参加した方々の様子を教えてください。

桑井先生 拉致問題の現状と課題を再認識されているようでした。地域の若い学生がサミットに参加し、問題提起することでより身近な問題と感じられるのだと思います。当たり前にある人権に対して、拉致問題のような悲劇を生み出さないためにも地域で人との関わりを大切にすることが重要であると感じました。



【地域のコミュニティースクールで報告する桑井先生】

福島県の中学生（同世代）に向けてメッセージ

永山さん 拉致問題によって、多くの被害者家族が今も解決のために活動しています。この問題は深刻な人権侵害であり、被害者を救うためにも多くの人が関心をもつことが大切です。拉致問題を「他人事にしない。自分事として考える」。多くの中学生がこの問題の解決に向け、声を上げていきましょう。そして、二度とこのような悲劇が起きないように国と国の問題に興味や関心を持ちましょう。私たちならできると思います。